相模経済新聞　2023年5月10日号

宇宙生命哲学 ことはじめ

56

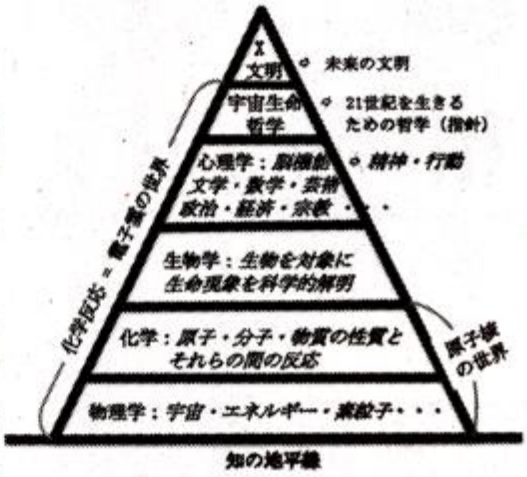
北里環境科学センター
名誉顧問／宇宙生命哲学者
伊藤　俊洋

対話型AI（Chat GPT）の真相を探る

問いかけに対し人間のような自然な回答を返す対話型AI（人工知能）の一つ「Chat GPT（チャットGPT）」が、世間を賑わしている。このAIの潜在的能力は、産業革命に相当するとの評価もある。今回は、この科学技術を、宇宙生命哲学的に論じて見たい。

ホモ・サピエンスは、およそ20万年前に誕生し、1万年前に記録技術を発明して、文明を誕生させ、膨大な知識を蓄積させてきた。当コラムでは、この膨大な知識を、学問の階層性という概念で、俯瞰的に系統的に整理してきた（図）。

歴史的には、大規模な感染症によるパンデミックの渦中で、大きな科学の進歩があった。1660年代の「ニュートン力学」の登場で、近代科学が誕生し、現代の目覚しい宇宙開発も、基本的には「ニュートン力学」の成果である。1910年代のスペイン風によるパンデミックの渦中では、「量子力学」が誕生し、ミクロの世界に科学のメスが入った。原子の内部構造が明らかになり、生命現象を含む地球上のすべての自然現象が、素粒子の動きで説明できるようになった。「量子力学」によって、人類の精神活動も含めてすべての生命現象が化学反応（原子の中の電子雲の変化）で説明されると考えられる。AI技術も、正に「量子力学」で得られた成果である。



学問の階層性（知のピラミッド）

一方、地球上の生命は、地球環境から生まれ、死ぬと地球環境に戻るという事実に基づいて、地球を巨大環境生命体と考えることができる。地球上の80億人の人類は、宇宙船地球号の頭脳細胞と考え、地球号の頭脳は、学問の階層性で示される知のピラミッドと考える。Chat GPTには、いずれ人類の知識（知のピラミッド）が蓄積されると考えると、現在、目の前で展開されている現象は、ほんの氷山の一角に過ぎない。その背後に隠されている潜在的な可能性は、人類史上まだ誰も見たことのない世界である。この果実を、人類の繁栄のために効果的に収穫する方法を考案する必要がある。そのためには、国家・民族・宗教・国家体制などの壁を超えた宇宙的視野に立つ哲学が必要であると考える。我々は、常に、宇宙から地球を眺めながら、母なる地球・宇宙船地球号で何が起こっているのか深く考えなければならない。20万年のホモ・サピエンスの歴史の中で、まだ誰も見たことのない平和な景色を、未来の子供達に用意できたら素晴らしい。